

## 受賞作家、横田中学校でワークショップ *Award-winning author visits Yokota Middle school, hosts workshop*

February 1, 2019

By Staff Sgt. Kyle Johnson  
374th Airlift Wing Public Affairs

2月1日、受賞作家ニール・シャスタマン氏が横田中学校を訪れ、中学生を対象に質問タイム、サイン会、創作作文のワークショップなどを行った。

シャスタマン氏が34年間に渡って出版した52冊の本は、全米図書賞を含む50以上の賞を獲得した。

「考えを世に出したくて書いている。私は疑問を投げかけるのが好きだが、答えは出したくないと思っている。私が思うに、この世で尋ねる価値のある質問というのは、簡単な答えを持たないものだと思う」とシャスタマン氏は述べた。

シャスタマン氏は、午前中のほとんどを創作作文のワークショップに時間を充て、丸一日を横田中学校で過ごした。内容盛り沢山のこのワークショップに参加した生徒は皆、事前に申込んだ生徒たちだと横田中学の学校司書アネット・ホラデー氏は言う。

ワークショップでシャスタマン氏は、生徒たちにミステリアス風なものから実にふざけたものまで約30のランダムなタイトルを考えさせ、さらにそれらのフレーズを組み合わせさせてユニークなタイトルを作らせた。

それから、そのタイトルの物語の冒頭を考えるよう生徒たちに言い、後でストーリーを全部書きあげたければ書けるようにとワークショップでその骨組みを完成させた。

「文学に興味を持ってもらえるよう、読み書きについて生徒たちに話している。彼らが本を読むよう、本との接点を持てることを願っている。彼らに、書くことに興味を持ち、また書くことが人間にとって、行動の全てにおいて大事だということを理解して欲しい」とシャスタマン氏は述べた。

ワークショップの後、シャスタマン氏は本のサイン会と150人の生徒を一堂に集めて質問タイムを行い、交流を図った。

「作家の授業を初めて行った一年後に、生徒たちのテストの点が上がったと、よく学校から聞く。訪問した作家の本を生徒たちが読み始めることで図書館の本の貸し出し数も増える。そして次第に読むことに関心を高め、読書する習慣を持つようになる。読書の習慣をつければ、人生のすべてに影響をもたらす」とシャスタマン氏は述べた。

